

ストーリー中心型カリキュラムにおけるリフレクション手法

Reflection method in Story Centered Curriculum

児玉 あゆみ* 小山田 誠* 根本 淳子* 北村 士朗* 鈴木 克明*

Ayumi KODAMA Makoto OYAMADA Junko NEMOTO Shirou KITAMURA Katsuaki SZUKI

*熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻

Instructional Systems Program, Graduate School of Social and Cultural Sciences, Kumamoto University

〈あらまし〉 熊本大学大学院教授システム学専攻では現在、ストーリー中心型カリキュラムを導入して授業を行っている。本稿では、本専攻の後期科目「eラーニング実践演習Ⅰ」内で実施しているインターン業務について振り返るリフレクションペーパーに着目し、今年度の後期科目「eラーニング実践演習Ⅰ」にてリフレクションペーパーを使用する際、改訂する必要がある要素に対応したリフレクションペーパーを紹介した。また、科目「eラーニング実践演習Ⅰ」以外の科目で使用する場合のリフレクションペーパーの要素について提案する。

〈キーワード〉 ストーリー中心型カリキュラム e-Learning リフレクション

1. はじめに

熊本大学大学院教授システム学博士前期過程では、2008年度より、大学院教育改革支援プログラムの一環として、ストーリー中心型カリキュラム（SCC：Story Centered Curriculum 以下 SCC）を導入している。SCCでは、学習全体に一つのストーリー性のあるシナリオを導入し、そのストーリーに沿って学習を行い、課題をこなしていく。課題は全体で1つのストーリーになるように構成され、学習者はストーリーの流れに沿って複数の課題を完了させる。後期 SCC 科目の一つとして、「eラーニング実践演習Ⅰ」が展開されている。本科目では、学習者がストーリー上で所属する「MTM 社」から「インターン」に派遣されるストーリー設定である。

本稿では、インターンでの報告を行なうリフレクシ

ョンペーパー（以下 インターン業務報告書）に着目し、第一筆者が学習者として SCC を経験したことを踏まえて、要素の改訂とフォーマット例（図 1）を提案する。また、改訂版のインターン業務報告書の要素を更に改訂することで、インターンを実施しない科目においてもインターン業務報告書を使用できるように要素を提案することを目的とする。

2. 手法

上述のように2008年度の業務報告書に着目し、インターンを実施する「eラーニング実践演習Ⅰ」とインターンを実施しないその他の科目における業務報告書の要素を比較し、要素を変更する理由、変更しない理由を述べた。また、以下のような（表1）結果となった。

表1 科目「eラーニング実践演習Ⅰ」と科目「eラーニング実践演習Ⅰ」以外における業務報告書内の要素の比較

改訂版「インターン業務報告書」	「eラーニング実践演習Ⅰ」以外の科目における「インターン業務報告書」	備考
タイトル: インターン業務報告書	タイトル: 業務報告書	
業務概要 ・業務内容とアウトプットの概略 ・具体物は添付すること	業務概要 ・業務内容とアウトプットの概略 ・具体物は添付すること	変更点はなし。どのような業務を行い、その業務を通じてどのような成果物を作成したのかを示す。業務概要を記述することにより、自分自身で業務内容を振り返ることができる。
業務を通じて確認したことや特に重要なこと ・業務指示内の重要事項 ・決定事項 ・他業務で習得した知識を活用した点 ・その他の留意した点 ・今後の予定など	業務を通じて確認したことや特に重要なこと ・業務指示内の重要事項 ・他業務で習得した知識を活用した点 ・その他の留意した点(今後の予定など) ・ <u>チーム活動による特記事項</u>	1週間で完了する場合には予定を記述する必要はないが、複数の週にまたがる業務の場合は、今後の予定を記述する必要があるため、その他の留意した点に含めて記述する。 課題に記した内容以外のグループ活動の発見を記すことで、今後のチーム活動を円滑に進めていける手立てとなる。
MTMの業務に活用できそうなノウハウ	<u>他</u> のMTMの業務に活用できそうなノウハウ	SCC科目では、それぞれの科目で得た知識を用いて、MTMの業務を行なうことを課題とする。そのために、課題と業務報告書内の“MTMの業務に活用できそうなノウハウ”を区別するために、“他のMTMの業務に活用できそうなノウハウ”と変更する。
業務で得たスキルや知識(熊大GSISのコンピテンシー・該当ファイルの添付)	業務で得たスキルや知識(熊大GSISのコンピテンシー・該当ファイルの添付)	

Meet The Mind		インターン業務報告書		報告日: 2009年7月15日
報告者	氏名	児玉あゆみ		
	メールアドレス	#kodama@l.gsis.kumamoto-u.ac.jp		
業務期間	2008年11月24日~2008年11月30日	派遣先	熊本大学eラーニング推進機構	
受入者	社名(団体名)	熊本大学eラーニング推進機構 教材開発サポートステーション		
	所属・役職・氏名	熊本大学eラーニング推進機構ステーション・教授・喜多敏博		
	メールアドレス	kida@ield.kumamoto-u.ac.jp		
業務概要	<p>・質問状の回答の確認 フェーズ1にて提出した科目担当教員への質問状(提出日:2008年11月19日「科目担当教員への質問状」)に対する回答を確認した後、回答に対しての質問を追加し、最終確認を行なった。-添付資料あり「回答レビュー」</p> <p>・提案書の作成 提案書のサンプルに従い、提案書の要件を確認した後、提案書をチームで作成した。-添付資料「プレゼン報告書」</p> <p>・プロトタイプの実施 科目担当教員に提示するプロトタイプの作成を行なった。-プロトタイプURI: http://mo.ield.kumamoto-u.ac.jp/inter1/course/view.php?id=2</p> <p>・プレゼンテーションの実施 作成した提案書とプロトタイプを用いて科目担当教員にオンラインにてプレゼンテーションを実施した。-添付資料あり「実施計画書」「カバーレター」「提案書1209」「別途資料」</p> <p>・プレゼン報告書 プレゼン時の議事録などを整理したプレゼン完了報告書を提出した。-添付資料あり「プレゼン報告書」</p>			
業務を通じて確認したことや特に重要なこと	<p>(1) 業務上の決定事項 科目教員とのプレゼンを経て、以下の点が変わったので、その内容を踏まえ、改訂提案書、改訂プロトタイプを作成する必要がある。 ・作成コンテンツを復習用コンテンツから、予習・復習用コンテンツに変更 ・作成コンテンツの流れを、「前提テスト→事前テスト→授業→事後テスト」に変更 ・演習問題の基礎的内容を前提テストに位置づけ</p> <p>(2) 業務上の重要事項 現在、インターン先で作成している科目「基礎数学演習第二」の受講者の多くは、本科目の授業において、演習問題が解けない状況である。科目担当教員は、その課題を解決するための事前学習として機能するコンテンツを求めていらっしやる。よって、当初我々が提案していた事後学習用の復習コンテンツではなく、事前学習用の予習コンテンツの作成へと提案内容を大きく変更する。</p> <p>(3) 他業務を通じて習得したスキル・知識を今回の業務に活かした点 2008年7月21日から7月27日までの業務内容(学習支援情報通信システム論 ブロック2)において、LMSの各種機能を利用する学習者、インストラクター、管理者など各立場と照らし合わせながら優先順位をつけることで、各機能にはどのような効果が現れるのか、利用した方がいいのかということを確認に示すことができるということを学んだ。 今回のインターン業務では、上述の業務で学んだことを活かし、要望と要望に対応する提案を照らし合わせながら優先順位をつけてクライアントに提示することにより、教員、学生、TAにどのような影響が現れるのか、どのように要望に対応できているのか、また要望を達成するのは可能であるのかを示すことができた。</p> <p>(4) 今後の予定 ・改訂プロトタイプの作成</p>			
MTMの業務に活用できそうなノウハウ	<p>クライアントから提出されるRFPには、主に対処して欲しい内容、行って欲しい内容が記述されている。eラーニング教材制作を行う上で、RFPで要求される内容を達成するために必要な「ヒト・モノ・カネ」のコストと教育効果を比較し、コストと教育効果が適用しなければ、クライアントの要求を建設的に批判し、再検討したり、場合によっては依頼を断らなければならない。 これらの内容が重要だということを、熊本インターンの「提案書の作成」とその「プレゼンテーション」の際に気づいた。提案書に載せる提案には全て優先順位をつけ、その順位の理由がコストや教育効果からであるということ踏まえて分かり易く説明することにより、クライアントに提案内容を理解してもらうことができる。また、その中で、断るべき要求には低い優先順位をつけて提示することで、MTMでの業務において教材作成を今後行なう際、コストが見合わなかったり、教育効果が低いといったことを伝えることができたり、該当要求について再検討をする一つの目安になると考えられる。 以上より、MTMとしては、今後、クライアントからの要求に応えるeラーニング教材制作を行う場合、RFPの読み方の強化を図り、要求に対してこちらが対応する提案書内に教育効果・コスト面を考えた優先順位を提示するページを含める必要がある。</p>			
業務で得たスキルや知識 (熊本GSISのコンピテンシー-該当ファイルの添付)	<p>(1) 熊本大学GSISコンピテンシー-番号4 LMSなどの機能を活かして効果・効率・魅力を兼ね備えた学習コンテンツが設計できる。 ⇒業務を通じてプロトタイプの作成を行なった。LMSの機能と、クライアントからの要望に照らし合わせながら、どのように設計すれば要望に対応できる、効果的、効率的、魅力のある学習コンテンツが設計できるか分かった。</p> <p>(2) 該当ファイル プロトタイプURI: http://mo.ield.kumamoto-u.ac.jp/inter1/course/view.php?id=2</p>			

図1 「インターン業務報告書」改訂版フォーマットの記入例

3. まとめ

本稿では、科目「eラーニング実践演習I」で実施されているインターン業務報告書に着目し、要素の改訂とフォーマット例を提案した。また、

改訂版のインターン業務報告書に着目し、要素の改訂を行なうことで、インターンを実施しない科目においても、インターン業務報告書を使用できるようにインターン業務報告書の要素を提案した。